

# 形容詞と共起する名詞のメタフォリカルな分布についての考察

## —多義構造分析を超えて—

大石 亨

明星大学 情報学部 情報学科

[oishi@ei.meisei-u.ac.jp](mailto:oishi@ei.meisei-u.ac.jp)

### 1 はじめに

われわれは、日本語の比喩表現を可能にしている概念メタファーの一覧を作成するための基礎データの整備作業を行っている。大石(2005)では、動詞と共起する項名詞をカテゴリーに分類し、カテゴリー間の対応を調査することによって、概念メタファーが獲得できることを示した。また、大石(to appear)では、「水」に関するメタファーを取り上げ、従来言われているより以上に多様な領域において「水」を元領域とするメタファーが用いられていること、および、その利用のされかたには領域ごとに偏りがあることなどを述べた。

本稿では、形容詞と共起する名詞について同様のデータベースを作成し、このデータを分析した結果得られた知見について述べる。今回分析対象としたのは、「赤い鼻」のように、「形容詞+名詞」の形、いわゆる限定用法(装定)の形容詞と共起する名詞と、「鼻が赤い」のように、「名詞+が+形容詞」という叙述用法(述定)において、「が」格に現れる名詞である。一般に、修飾関係には格関係が含まれるので、後者に現れる名詞は前者にも現れうると考えられる。実際には、慣用的にどちらか一方にしか現れない名詞も多いのであるが、特に問題にならない限り、本稿では両者を区別せず、ともに共起名詞として扱うことにする。また、「鼻が赤いトナカイ」のような名詞句からは、「赤い」という形容詞に対して「鼻」と「トナカイ」の両方が共起名詞として得られることになる。このうち、「赤い」が限定しているのは「鼻」であって、「トナカイ」ではない。しかし、「赤いトナカイ」というものが想像可能である限り、考察の対象に含める。すなわち、本

研究では、形容詞と名詞が2語だけで与えられたときに、文脈的な要素を補充することなく、その意味が解釈できるときには(原文の意味とはずれる場合でも)考察の対象とする。逆に言えば、「髪の毛の長い少女」のように、「長い少女」だけでは意味が通じないような場合には考察対象としないということである。

### 2 データ作成方法

データベース作成のために、われわれが用いたのは、EDR日本語共起辞書【EDR1995】である。この辞書は、EDR日本語コーパスに格納された実例文の解析結果から、係り受けを構成している部分、すなわち共起句を抽出し、句の表記の五十音順に並べたものである。日本語共起辞書レコードは、レコード番号・見出し情報・共起句構成要素情報・構文情報・意味情報・共起状況情報および管理情報から構成されているが、われわれが用いたのは見出し情報、すなわち共起する語の字面のみである。以下に、作業手順を示す。

STEP1: EDR共起辞書から「形容詞-φ-名詞」「名詞-が-形容詞」という形式のデータをすべて抽出する

STEP2: 形容詞を抽出・分類し、形容詞ごとに、共起名詞を登録する

STEP3: STEP2で登録した名詞を類義語群に分類する

STEP4: 可能であれば、類義語群にカテゴリー名を付与する

STEP1では、限定用法15,061例、叙述用法7,336例の共起データが得られた。前者には771種類、後者には287種類の形容詞が存在し

たが、このうち、「大小」「長短」等の対立概念にあるものを中心に295語の形容詞を抽出し、分析対象とした。表1に、抽出した対立概念等の分類を示す。

表1の中で、「情態」「情意」の用語は国語学で用いられるものであり、基本的に、情態形容詞は対象の属性を描写するもの、情意形容詞は人の感情を表すものである。また、温度・痛覚の形容詞が、味覚や聴覚などの知覚形容詞と区別されているのは、主語の立ち現れ方に違いが見られるからである。(以下の分類は、尾上(1997)で示されているものの一部であり、篠原(2002)に引用されているものである。)

- A. 情態形容詞文
  - 属性の持ち主—属性  
花が赤い。/部屋が暗い。
- A'. 評価の形容詞文
  - 属性の持ち主—属性(評価込み)  
この部屋はきたない。/この娘はかわいい。
  - 部分・側面—評価(属性込み)  
(この部屋は)壁がきたない。/(あの娘は)目がかわいい。
- B. 情意形容詞
  - 情意の対象(機縁)—情意  
父の死が悲しい。/故郷がなつかしい。
  - 情意の主体—情意  
わたしは悲しい。/わたしは懐かしい。
- C. 温度・痛覚の形容詞文
  - 感覚の機縁—感覚  
バラのとげが痛い。/氷が冷たい。
  - 感覚の主体—感覚  
わたしは痛い。/わたしは冷たい。

- 感覚の場所(身体の部分)—感覚  
足の裏が痛い。/指の先が冷たい。
- D. 存在に関わる形容詞文
  - 存在するもの—存在量  
水溜りが多い。/間違いが少ない。

一般に、感覚器官で捉えられた刺激は、その刺激を引き起こした対象に付随しているものとして認知されると同時に、われわれの心にある感情を引き起こす。上の分類は、この一連の事態のどの部分を主語として取り上げるかという、事態認知の仕方に対応している。篠原(2002)のいうように、複数の主語選択の可能性を許す形容詞は、もやもやした感覚の中から複数の中核を求めるプロセスであり、同一のdomain(同一経験、知識体系)内のprofileの選択の差から生じるメトニミー的認知を反映しているといえる。

さて、このように分類した形容詞に対して、どのようなカテゴリーの名詞が共起するかを調査するために、STEP3で類義語群に分類した名詞群に、STEP4でカテゴリー名を付けた。個々の語に特異的(idiosyncratic)な特徴も、カテゴリーとして見れば規則性を示すことがあるからである。大石(2005)と同様、この作業は手作業で行っている。分類をしながら分析をするためであり、既存のシソーラスや統計的手法では利用されていないような視点を発見するためでもある。このようにして作成したデータベースの一部を表2に示す。表2は、「明るい」という形容詞が共起する名詞を分類したものであり、2列目が限定用法、3列目が叙述用法で共起する名詞群である。

表 1 分析対象形容詞の分類

タイプ分類	概念
A.情態	色彩, 明暗, 深淺, 厚薄, 濃淡, キメ, 軽重, 硬軟, 堅牢, 高低, 陰滑, 鋭鈍, 強弱, 太細, 広狭, 遠近, 長短, 締め付け, 新旧, 遅速, 味覚, 嗅覚, 聴覚
A'.評価	危険安全, 目立ち, 美醜, 難易, 正誤, 良否, 賢愚, 可憐, 妖艶, 凄絶, 態度
B.情意	忙閑, 苦楽, 感情(喜怒哀楽), 恐怖
C.温度・痛覚	温度, 痛覚
D.存在	多少, 貧乏

表 2 形容詞「明るい」と共起する名詞

形容詞	「形容詞＋名詞」	「名詞＋が＋形容詞」
明るい	壁-空間-室-島-視野-ステージ-空-店舗-通り-所-浜辺-場所-部分-部屋-方向-町-窓-店-水底-面-山々-夕空	あたり-室内-空-中-背景
	材料-もの	
	うち-春-昼-白夜	
	光線-照明-太陽-天体-灯-光-日差し	陽ざし
	赤絵-色-色彩-茶色-花柄	
	彼女-クラスメート-国会議員-親友-青年-人-者-優等生-少年-人	
	笑顔-顔-表情	笑顔-顔
	家庭-環境-状況-雰囲気-感じ	
	将来-人生-展望-見通し-未来	見通し
	性格-人柄	性格
	声-調べ-笑い声	声
	作品-冗談-ニュース-話-理由-話題-規則-命題	

### 3 多義構造分析 - 「明るい」の場合 -

表2を見れば、特に限定用法で、非常に多様な名詞が共起していることがわかる。国語辞典では、これらをいくつかまとめて、それぞれに語釈を与えている。たとえば、『大辞林 第二版』（三省堂）では、

(1)光が十分にある状態である。また、そのように感じられる状態である。

「一・い照明」「一・い部屋」「月が一・い」「一・いうちに帰る」「ライトが顔を一・く照らし出す」「一・いレンズ」

(2)色が澄んでいる。黒や灰色などがまじらず鮮やかである。彩度が高い。

「一・い色」「一・い紺」

(3)人の性格や表情、またかもし出す雰囲気などが、かたわらにいる人に楽しく、朗らかな感じを与える。晴れやかだ。楽しそうだ。

「気持ちが一・い」「一・い家庭」「一・くたくましく生きる」「一・い人柄」「一・い雰囲気」「一・い小説」

(4)物事の行われ方に、不正や後ろ暗いところがない。公正だ。公明だ。

「一・い選挙」「一・い政治」

(5)未来のことに対して、希望をもつことができる状態である。

「前途が一・くなった」「一・い見通し」  
(6)（「…にあかるい」の形で）その物事についてよく知っている。精通している。くわしい。

「法律に一・い人」「数字に一・い」

という6つの語義が記載されている。従来の語彙研究は、このような多義の間にどのような関連があるかを論ずるものが多い。（初山(1994)・小田(2003)・山添(2003)など）

「明るい」の場合も、(1)が基本義であり、(2)の色の彩度は光が当たった時の色の見え方を表しており、(3)(5)の楽しく朗らかな感じは光の中にいるときに人間が感じる晴れやかさと関連し、(4)(6)は、光があれば物事がよく見えるところから派生したものと考えられる。なお、「暗い」という形容詞も、「明るい未来」に対して「暗い過去」のように、共起する語そのものは異なるが、ほぼ同じカテゴリーの名詞群と共起している。

### 4 意味拡張の2つのパターン

前節の多義構造分析は、語義間の関係を説明するものであるが、そもそもなぜこのような意味の拡張が起こり、拡張の結果どのような名詞と共起するかを説明するものではな

い。われわれは、この意味拡張の基盤に、2節で説明した事態把握のメトニミー的認知のパターンが存在すると考える。すなわち、もともと情態形容詞（「この部屋は明るい」）であった「明るい」が、メタファー的拡張によって雰囲気を表すようになると同時に、そのような雰囲気をもたらす人間への評価（「あの人は性格が明るい」）の形容詞へのタイプ変換が起こったと考えるのである。この変換はさらに進んで、情意形容詞へと近づいている。「明るい顔」「明るい声」「明るいニュース」などは、「悲しい（うれしい）顔」「悲しい（うれしい）声」「悲しい（うれしい）ニュース」のような感情を表す形容詞とまったく同じ分布をしており、これらは「明るさ」というものが感情と同様に「ニュース」によってもたらされ、「顔」や「声」を通して表出されるものと認識されていることを示している。ただし、「私は明るい」という文は感情表出としては成立しないことから、この変換は完全ではない。

同様の拡張は、「青い」という情態形容詞が「あいつはまだまだ青い」というような評価形容詞として用いられ、「堅い」「鋭い」などの感覚形容詞が人間の性格や能力を表したりするところにも見られる。また、「冷たい」「暖かい」という温度の形容詞は「冷たい仕打ち」「暖かい声援」のように、態度を表す形容詞として用いられるが、これらと共起する「言葉」「視線」「扱い」などの語は、「優しい」「厳しい」など元々対人関係を表す形容詞と共起する語である。これらは、個別の多義性として分析するよりは、メトニミー的認知に基づくタイプの変更と考えたほうが、全体の見通しがよくなるだろう。ここには、楠見(2004)が共感覚比喩において指摘しているのと同様の、情態から評価・情意へという方向性が認められる。

もちろん、形容詞の多義性は、タイプの変換をもたらすものばかりではない。純粋にメタファーによる意味拡張と考えられるもの

も数多い。その場合でも、単に一形容詞の多義性と考えるよりも、関連する動詞や名詞とともに考えたほうが理解しやすい。

深い認識 ⇔ 考えを掘り下げる  
深い印象 ⇔ 心に刻む  
厚い支持 ⇔ 支持基盤（支える）  
細かい説明 ⇔ 噛み砕く・呑み込む  
苦い経験 ⇔ 辛酸をなめる  
熱い思い ⇔ 情熱を燃やす  
重い責任 ⇔ 責任を背負う

## 5 おわりに

本稿では、形容詞の意味拡張には、メトニミー的認知に基づく形容詞のタイプ変換によるものと、具体的動作を介したメタファーに基づくものの二つがあることを論じた。これらはいずれも従来の多義構造分析からは見えてこないものである。

## 参考文献

- 大石亨(2005) 共起情報を用いた概念メタファーの発見. 言語処理学会第11回年次大会, pp.392-395.
- 大石亨(to appear) 「水のメタファー」再考 —コーパスを用いた概念メタファー分析の試み— 日本認知言語学会論文集. 第6巻.
- EDR(1995) 『EDR電子化辞書使用説明書』日本電子化辞書研究所.
- 尾上圭介(1997) 第6回CLC言語学集中講義「認知言語学と国語学の対話—モダリティ, 主語をめぐって」第2部,第2分冊.
- 篠原俊吾(2004) 「悲しさ」「さびしさ」はどこにあるのか—形容詞文の事態把握とその中核をめぐって. 西村義樹編『認知言語学I:事象構造』, pp261-284, 東京大学出版会.
- 籾山洋介(1994) 形容詞「カタイ」の多義構造. 名古屋大学日本語日本文化論集2. pp65-90.
- 小田希望(2003) 甘くてスウィート. 瀬戸賢一(編) 『ことばは味を超える: 美味しい表現の探求』, pp186—214, 海鳴社.
- 山添秀剛(2003) 苦くてビター. 瀬戸賢一(編) 『ことばは味を超える: 美味しい表現の探求』, pp215-240, 海鳴社.
- 楠見孝(2004) 味覚のメタファー表現への認知的アプローチ. 日本言語学会第127回大会予稿集 pp9-14.

1 「怖い顔」といえば怖さが現れた顔ではなく、恐怖をもたらす機縁となる。この点で、内側から溢れる「喜怒哀楽」とは区別されるべきであろう。